

【学校だより】

# かがやくこころ ver3



令和4年 4月 11日(月) 第 1号

## 今年度もよろしくお願ひいたします。

雲浜小学校長として3回目の春を迎えることになりました。今年も子ども達にとって「たのしい学校」になるよう、職員一同切磋琢磨してまいります。どうかよろしくお願ひいたします。

今年桜の花も入学式には満開となり、絶好のお天気での1年のスタートとなりました。本県における新型コロナもまだまだ予断を許さない状況ですが、活動の自粛ばかりでは、子ども達にとっての「たのしい学び」は実現できません。感染対策に気をつけながらも、新しい出会いや発見が生まれる学びを学校としては提供できないか今後も模索していきたいと思ひます。

今年の雲浜小キャッチフレーズは「学校大好き、雲浜大好き、小浜大好き」です。スタッフ一同この実現に向けて学級経営、学校経営を行っていききたいと思ひます。どうか今年も忌憚のないご意見をいただきますようお願ひ申し上げます。



## 新たな出会い！

リモートによる新任式が終わると、理科室に待機していた全ての教員は各クラスに向かいました。新しい出会いに向けて…。



今回多くのクラスで昨年度より担任が変わり、生活支援員さんも新しく来られた学級もあり子ども達だけでなく教員自身にとっても新たな出会いとなった日ではなかったでしょうか。学級開きの様子を見て回っていましたが、教師側にも児童側にも多少の緊張感があり、見ていてとても微笑ましく感じました。よく教員の中には年度初めを「黄金の1週間」と言ったりします。クラス経営にはとても大切な時期だという意味です。どんなクラスにしていきたいのか、クラスとして大事にしないといけないのは何かなどをしっかりと話し合っ、より良い方向性を導いて欲しいものです。学級の中で悲しい思いや辛い思いをした場合は、いち早く担任や学校が寄り添うことができるか、また力強く生き抜く方法を一緒に考えることができるかが大切になってきます。

今年度はベテランから初任者まで幅広い教師の経験があります。若手教員は必至でベテラン教員に追いつくべく日々の教材研究等に励んでもらわないといけません、必ずしもベテランが全てに勝っているわけではありません。児童の考えにより近い教員から児童に寄り添うすべについて、またタブレット等ICTを活用した個々の児童に沿った学びについてはベテランが学ぶべきことも多いはずで、教師自身も互いに学び合う中で学び続ける姿勢を大切にすることを、大切にしたいと考えています。**大切なのは「目の前の子ども達」**。彼らが今後たくましく時代を生き抜くための力を、教員や保護者、地域の人々の力をお借りしながら育てていくべく教員が一枚岩となって子ども達と接していきたいと思ひます。さあ、まずはともあれ「黄金の1週間」のスタートです。



左は入学式の一場面。6年生が新入生に呼びかけをしてくれているところです。

新しくみんなの仲間入りをした彼らにとって雲浜小が魅力的であるかどうか今年1年間問われているのだと思ひます。

おにいちゃんおねえちゃん。「たのしい学校」になるようよろしくね。